

わたしの目にあなたは価高く、貴く

—イザヤ書43章4節—

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川部会

2009年8月25日
第116号



『まなざし』

白百合幼児学園 園長 島田 勝彦

夏休みなど大きな休みに入る前、よく子どもたちにお話します。
「休みになるときつといろいろなところにお出かけするでしょう。そのとき、お父さんやお母さんが迷子にならないように、しっかり手を繋いでいるんですよ。大人の人は何でも自分でできると思うから、勝手に歩き出します。でも、気がつくと周りにたくさんの方がいるので迷子になります。皆さんが小さくてよく見えません。だから、お父さんやお母さん、大人の人はみんなを捜せないで迷子になってしまおうのです。」

ですから、お父さんやお母さんが

聖句

わたしの目にあなたは価高く、貴く
わたしはあなたを愛し
あなたの身代わりとして人を与え
国々をあなたの魂の代わりとする。

—イザヤ書第43章4節—

迷子にならないように、しっかり手を繋いで注意してあげてくださいね。」
迷子の気持ち、わかりますか。想像してみてください。

デパートかなにか、おもちゃ売り場でのこと・夢中になって遊びまわります・ふと気がつくと、見ているはずの親がそこにはいない・見ているはずのまなざしがそこにはない

・どんなにたくさんの方がそこにも・どんなに親切に声をかけられても・自分を見守っているはずの存在がそこにはいなければ泣き出すのです。あの、迷子の心境こそ、聖書が言う「死」なのです。孤独、虚無の状態です。関係を失った状態です。いるべきものがいない。いるはずの存在がここにいない。なんと不安。なんとさびしいことでしょうか。じゃあそんなに大切なら、いつもその存在を意識し、関係をよく保っているか、というとそうでもないのです。結構わたしたちは子どもに負けず天真爛漫、いい加減です。でもどうしてでしょうか。どこか安心しています。それは無意識のうちその存在を認め、見守るそのまなざしがあると意識しているからではないでしょうか。そうです。わたしたちは天涯孤独ではありません。誰一人、神のみ前に迷子はいないのです。

多くの場合、子どもたちにしても親にしても、相手がこちらを見失ったの

ではありません。こちらが相手を見失って、迷子になってしまったのです。あなたは迷子になっていませんか。神としっかり手をつないでいますか。もう自分は大丈夫。何も頼れるものがなくてもやっついていられる、自分の道は自分で歩ける、と思っていないませんか。いつの間にか繋いでくださっている神の手を振り払って、迷子になっていくことも気づかずにいませんか。本当に大丈夫でしょうか。しかし、人がどれほど不誠実であっても、欠けがあり、汚れた存在でもこれを創られた神の目には価高く、貴く、何にも変えがたい宝だ、と言われるのです。神は繰り返し呼びかけてくださいます。

「わたしの目にあなたは価高く、貴く、わたしはあなたを愛している」と。これは、わたしたち一人ひとりが神に見守られ、そのまなざしの中にいる証拠です。神に愛されていると気づくには、この神のまなざしの中に自分を発見することです。そして、子どもたちからも迷子にならないようにしまし

よう。



ひかりの子幼稚園 猪熊祥子

四月二十二日(水)、清水が丘教会にて新任教師歓迎会が行われました。礼拝の中で関東学院野庭幼稚園 主事 小高千恵先生よりフイリピンへスタディーツアーに参加された時の経験、フィンランドでの生活、子育ての経験を通して、「このために」という視点を交えて相手と同じ目線に立って「ともに」という気持ちで自分が見ているのかと自問し、考えるようになったこと、どうして「ともに」なのか考えた時、聖書にあるように小さくても私にも意味があり、ぶどうの木(IIイエス様)の枝のように一人ひとりがイエス様に繋がっているのだと感じた喜びをお話して下さいました。

「お話」の魅力とは

捜真幼稚園 岡野きよみ

捜真幼稚園では、毎週月曜日の朝、学年ごとにお話を聞く時を持っています。保育者は順番が回ってくる、学年や季節を考えてお話を選び、語ります。語るお話は、東京子ども図書館出版の「おはなしのろうそく」や東京子ども図書館が推薦する本や小澤俊夫先生再話の昔話の本など、お話に適したものから選んでいます。

お話を聞くことのできない年少組は、ペープサートや人形など視覚的道具を使いながらお話をすることから始めますが、入園して二ヶ月もすると、短いお話や聞いたことある繰り返しの話などを楽しんで聞けるようになります。年中組や年長組は、三学期にもなると、二十分程の長いお話を楽しめるようになります。

繰り返しのお話を聞くことによつて、想像力や考える力、ことばの力(語いや語感)が育ち、お話を楽しくむ力が備わっていきます。現代は、テレビやアニメーション、コンピュータなど一方的に語る視覚的な刺激が蔓延しています。だからこそ、肉声で語る原始的な人間本来のコミュニケーションの方法で語るお話を大

切にしたいと思っています。

私がお話の魅力を実感できるようになったのは、幼稚園で子どもたちの前でお話を語るようになってからです。お話を語り始めた頃は、暗記したお話を間違えずに話そうと必死で、楽しむ余裕などありませんでした。しかし繰り返し語る中で、子どもたちの反応を感じながら語るお話の醍醐味を味わえるようになりました。今では、子どもたちの瞳を見つめながら語っていると、子どもたちがお話しの世界に引き込まれていくさまが、手に取るように伝わってきます。

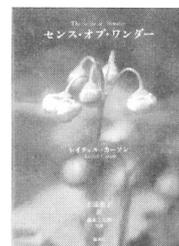
小さな子どもが大男に勝つたり不思議な力を発揮する場面では、子どもたちも主人公と一緒に胸を躍らせます。また怖い話の時には自分の耳をふさいだり、泣き出しそうな顔をしたり、おかしな場面では大笑いするなど、子どもたちの表情はストーリーの展開と共に変化していきます。話し手も、語る言葉がダイレクトに届いていることを実感できるひと時です。

お話には絵本や紙芝居では味わうことのできない、語り手と聞き手の一体感があります。この一体感がまた語りたいたいと思わせるお話の魅力なのかもしれません。

センス・オブ・ワンダー

新潮社 ¥1400+税

海洋生物学者のレイチェル・カーソンが幼子と一緒に雨の森の中に散歩に行きます。自然の中で、子どもたちは宝石のように美しい植物や昆虫、小動物に出会います。自然はいのちの輝きにあふれています。不思議なものを発見する感性のかけがえのなさを豊かに伝えてくれる一冊です。



保育者のあなたへ...

本のご紹介

倉橋惣三と現代保育

フレーベル館 ¥1200+税



「育ての心」の著者である倉橋惣三は、「子どもの心に寄り添うこと」を説いた学者・実践者です。「幼児にとつては主体的な生活(遊び)そのものが教育だ」と考えていました。

「日本の保育の原点」とされるその思想と現代保育のかかわりを探る一冊です。

第一回講演会報告

御濠端幼稚園 岩井雪乃

六月十七日(水)ハリス記念鎌倉幼稚園にて、聖学院大学学長の阿久戸光晴先生による講演が行われました。

「共に生きる」自分を生きてく子どもたちと共に生きるキリスト教保育者の使命」と題し、お話をしてくださいました。

冒頭に一人の少女との出会いを語ってくださいました。その少女は幼い頃事故で記憶を失ってしまいました。その少女のことを母親は「この子はダメになってしまった」と哀愁な子という扱いをされてきました。しかし、彼女は三年間浪人をし、教員となり今も頑張っているそうです。事故により個性に変化は見られたものの、今まで見ることができなかった新たな個性を見出すことができたのです。『教育とは子どもの可能性を引き出すことである』

その後先生は様々な絵本を読み語り、その中からキリスト教保育者の使命を教えてくださいました。

「さっちゃんのまほうのて」(借成社)「だいじょうぶ、だいじょうぶ」(講談社)では、子どもを本当に生かすのは保育者の言葉であるということ。「くまのこうちようせんせい」(金の

星社)「てん」(あすなる書店)「ish」(walker books)では、子ども達のunder(足元)にstand(立つ)こと(understand)ことになるということ。「じぶんだけのいる」(好学社)「ずーっとずっとだいすきだよ」(評論社)では、共に生きることが自分を発見することにつながるということ。「フレデリック」(好学社)「ルピナスさん」(ほるぶ出版)では、生きる糧のパンを持つていけば、幼稚園を卒園し小学校へと歩んでいく子ども達の生きていく力(希望)となるということ。

今現在、傷つき居場所のなくなっている子どもが多くなっている。私たち保育者は子ども達の心落ち着く場所を作り、子どもたちが心を聞かせ、新しい世界へ安心して出発することができるように、明日に向かって生きていく子どもたちが花を咲かせることができるように、生きる喜びを感じる教育をすることが大切である。と語ってくださいました。豊かな学びに感謝します。



五月十三日・六月二十四日 新任教師研修会報告

横浜英和幼稚園 岡田直美

今年度は「育ち」を考えるというテーマで、講師の先生方からたくさん事例を交えた、分かりやすく楽しいお話を伺っています。

五月は東洋英和女学院大学付属かえで幼稚園前園長の土橋克子先生をお招きしました。先生の多くのご経験の中から、一人遊びの大切さや、子どもの気持ちを受容すること、子どもの視点に立って考えることの重要性、保育者が豊かな心と生活力を身に付けることで生まれる保育の充実等々のお話を伺うことができました。

また、私たち保育者の本当の自立というものは、仲間の中で『助けて』と言えることというお話もあり、グループ懇談の時には、「毎日が不安と緊張の中にあつたけれど、土橋先生のお話を伺って、助けて欲しいことを言ってもよいのだと安心し、ホッとしました」という発言や、「本当の自立とは仲間内で『助けて』と言えること、という言葉が心に残り、チームでの保育の大切さ、一員になること等を考えた」という記述もあり、保育の経験年数に関係なく、心に残るお話を聞かせて頂くことができました。

六月はハリス記念鎌倉幼稚園前主任の石井理子先生をお招きして、「自分の子育てと幼稚園での経験からのお話を伺いました。」

子育てのご経験からは、子どもには読心術があり、いつもと同じように母子で手を繋いで散歩をしていると、「どうして今日はしっかりおてつないでくれないの？」と娘に言われ、自分がイライラしていたことに気付かされた、というお話がありました。日常の何気ない一コマでも、幼い子どもは大人の思いを敏感に感じ取っていることに改めて気付かされます。

また幼稚園での仕事というものは、目に見えない「根」の部分を押さえている、根を張っている花は引張つてもすぐには抜けないけれど、根の張つていない花は引張つてしまうとすぐに抜けてしまうというお話もあり、グループ懇談では見える部分を追いかけてしまいが、立ち止まって見えない部分に目を注いでいこうと思つた、共感する部分が多かつたという感想がありました。

私も主任一年目。自分自身が自立できるように、そして心を整えて子どもに寄り添うことが出来るようにと感じた研修会でした。



五月十九日(火)に清水ヶ丘教会にて二〇〇九年度第三回役員会が行われましたので報告いたします。

◆今年度役員は 部長・島田勝彦
副部長・古旗誠、森田裕明
会計・加部公子、島田美緒

書記・鈴木裕美、田名網仁

監事・清水臣、奈良昌人

園長会・東間千鶴子、豊嶋ときわ

主任会・草ヶ谷弘子、堀口由利子

◆四月十四日(火)平塚教会にて行われ

ました二〇〇九年度キリスト教保育連盟神

奈川部会総会議事録が承認されました。

◆二〇〇九年度夏期講習会

八月二十五日(火)関東学院大学にて行

ます。全体会議師は松井直先生です。

又、今年も分科会形式で行われます。

会費は一人、四千円です。

◆新任教師歓迎会が四月二十二日(水)に清

水ヶ丘教会で行われ、百三十九人の方が

出席されました。その内の二十人が新任

の先生でした。

◆第一回講演会

六月十七日(水)ハリス記念鎌倉幼稚園に

て行われました。講師は聖学院大学学長の

阿久戸光晴先生でした。

◆主任研修会

七月三日(金)十五時三十分くめぐみの子

幼稚園にて行われました。

◆園長会

二〇一〇年一月十一日に予定をしていま

す。

今年度より新しく加盟された園を紹介致します

私塾まきば

住所 千二五五〇〇〇三 神奈川県中郡大磯町大磯八六八
園児数 満三才く就学前 二十七名

一九九六年六月に設立した認可外保育施設です。町立幼稚園しかない大磯町の中で、キリスト教保育の実践ができますことは神様からの大きな恵みだと思っております。

大磯駅前のこんもりとした

緑の中に、社会福祉法人児童

養護施設「エリザベスサンダ

ースホーム」と学校法人「聖

ステパノ学園」があります。

当園は聖ステパノ学園の一

隅に居候をさせていただ

いております。学園の小中学

生とも良い交わりを持ちな

がら、大きな家族のような生

活を日々楽しんでおります。

大磯は山々と海に囲まれた

町です。子どもたちは近く

の山でお弁当を食べたり、磯

で遊んだり、少し離れた所に

畑を借りていますので農作

業に出かけたり、神様の創ら

れた大きな自然の懐のなか

で元気いっぱい過ごしています。

一、神様を愛する子ども

二、自分を大切にする子ども

三、まわりの人を大切にす

子ども

四、心を豊かに表すことが

できる子ども

を目標に祈りつつ、学びつ

つ、話し合いつつ、保育をす

めております。



当園は一九四二年六月十

五日に創立されました。親子

三代にわたって通ってくだ

さったご家族もあり、横浜市

港北区では最も伝統のある

保育園として、地域の方々に

親しまれております。一九八

一年から乳児保育を開始、現

在は生後六ヶ月から就学前

までの子どもたちをお預か

りし、朝七時半から午後七時

までの保育を行っています。

園舎は古く、園庭は猫の額ほ

ど、自慢できるものは有りま

せんが、あえて申し上げれば

「聴く耳を持っている園」と

いうことになるでしょうか。

最近も保護者の意見を取り

入れ、情操教育プログラムの

一環として世界的なアーツ

イストをお迎えして「ワーク

ショップ」を開催しました。

地域共に、保護者と共に歩む

園として、豊かな保育を提

供していただけるよう日々励ん

おります。



編集後記

原稿を寄せて下さった先生方、お忙しい中ありがとうございました。今年度から広報は私塾まきば・ひかりの幼稚園で担当させていただきます。御意見・御感想等ありましたらお知らせ下さい。間もなく新学期。子どもたちとともに過ごすことができる恵みに感謝して保育の業に励んでまいります。

発行日

二〇〇九年八月二十五日

発行所

茅ヶ崎市芹沢九一三

ひかりの子幼稚園

編集者

神奈川部会 広報担当

菊名愛児園

宗教法人日本基督教団横浜菊名教会附属

住所 千二二二〇〇二 横浜市港北区菊名四一五

園児数 乳児二十一 幼児百三名 計百二十四名